

梅沢弘氏

1. 立候補を決めた理由を教えてください

16年前、市議を志した一番の要因は鉄道高架を止めなければ莫大な借金で沼津市は駄目になるとの強い懸念を持ったため。しかし、その危機感と使命感が深まるばかりで、私が市議という立場を失う事は、さらに沼津市を混迷の淵に陥れると認識。あと4年、私が積み重ねてきた知見と経験を活かし、本市の政策を変更させ、鉄道高架という重い課題を解決する方向に向けることができる住民投票の実現が見えてきたのが大きな理由。

2. 沼津市が現在抱えている最大の課題は何で、どのような対応策が必要だとお考えですか

最大の課題は栗原裕康元市長が市長選に敗れた折「鉄道高架事業を推進しなければならなかったのが敗因」「その為、市民の求めるほかの事業が出来なかった」と述べている点に凝縮され、本当に必要な事業ができない、予算が限られているからできないという一丁目一番地の課題が高架事業であると私の16年間の調査研究からもはっきり認識できます。対応策は高架事業をやめ、20分の1の予算でできる橋上駅・南北自由通路を創ることです。

3. 沼津駅付近鉄道高架事業により沼津市の再生は可能だと考えますか。

可能だとすれば、そこには、どんな因果関係があると思われますか。

いつの時代を基準にした再生か不明で答えにくいのですが、昭和30-40年代に100万人の商圏都市と言われたような時代への復活・再生は絶対あり得ないことは自覚しなければなりません。大事な政策は再生ではなく持続可能なまちづくりで、沼津市当局と議会の大多数が進めている政策を変更させなければなりません。鉄道高架事業による莫大な借金（沼津市分だけの新たな市債発行は400億円超）で持続可能なまちでなくなります。

4. 沼津市の人口減少について、国の関係機関の予測を上回るような沼津市当局が考えている合計特殊出生率の達成は可能だと考えられますか。

移住・定住策で何か、お考えはありますか。

本市の人口減は国の関係機関の予測を上回り当局作成の合計特殊出生率の達成は不可能。鉄道高架事業を進めると今の市民サービスが無くなり転出者が激増するので、高架政策をやめ移住・転入政策に予算を回す。明石市の様に予算の大部分を子ども政策に回す「子育て日本一のまち」を目標にし、栃木市の様に職員が移住希望者に寄り添い親身に相談を受ける体制づくりをする。不動産業者任せや事業者任せの本市の政策を変更する事。